アカデミックスキルズゼミⅠ（読む・書く・話す・聞くことのレッスン）

2023-S000009622-01

紺田　広明、鶴田　直之、佐藤　寿倫、須長　一幸

期別：前期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：演習　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：無し
授業時間割：前期：火・５時限　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

大学では、所属する学部学科によらず、体系化された学問知識だけではなく、「データの読みとり方」、「他人の意見の要点のとらえ方」、「論理的な思考法」、「質問の仕方」、「批判や反論の方法」、「他人に自分の意見を伝える方法」、「ノートのとり方」、「わかりやすい文章の書き方」といった多くの高度なアカデミックスキルズ（学問的技法）を習得する必要があります。この授業では、それらの基礎部分である「読む、聞く、話す、書く」能力をアカデミックスキルズの習得に必要不可欠なレベルにまで多角的に養います。そのために、授業は異なる学問分野を専門とする4名の教員が担当します。同時に大学で学問を修めるための学ぶ態度や規律性も身に付けます。

学生諸君は、チームに分かれて、3名の教員から4回ずつ授業を受けることになります。そこでは、「授業計画」の欄の第2回目から第13回目までに記載している複数の入門的なアカデミックスキルズ活用場面を通じて「読む、聞く、話す、書く」能力を育成する授業を行ないます。第14回目と第15回目の合同ゼミでは、受講生全員が一つの教室に集まって、それまでに養った「読む、聞く、話す、書く」能力を実地に活用する課題に取り組みます。学期中の2回のミニレポートを通じてレポート作成のルールと基本的な体裁を知り、適切な構成と論理性を踏まえた内容のレポートを作成する練習をした後、学期末には、合同ゼミの内容を踏まえて各自が最終レポートを提出します。

◎－－－　到達目標　－－－◎

入門的なアカデミックスキルズ（「読む、聞く、話す、書く」能力）の意味・方法・重要性について理解することができる。(DP1-1)(知識・理解)

今後の自分が学んでいく学問において、アカデミックスキルズ（「読む、聞く、話す、書く」能力）の活用を考えることができる。(DP1-2)(態度・志向性)

さまざまな領域の学問が関わる授業の体験を踏まえた、広い視野と多角的に物事を見ることができる。(DP2-1)(態度・志向性)

他者と協働して活動するために、自分の主張や考えに固執せずに、さまざまな他者の主張や考えを受け入れる柔軟さを持つことができる。(DP2-2)(態度・志向性)

他者と協働して活動するために、積極的な態度で参加して、責任ある言動をとることができる(DP3-1)(態度・志向性)

アカデミックスキルズ（「読む、聞く、話す、書く」能力）を活用して、主張と根拠に基づく、論理性を踏まえた、基本的なレポートや提案を作成することができる。(DP4-1)(技能)

アカデミックスキルズ（「読む、聞く、話す、書く」能力）を応用して、チーム単位での発表としてまとめることができる。(DP4-2)(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

理解のむずかしかった点を自分なりに整理する。(30分)

次回の授業までに調べてくるよう指示された項目については予習をする。(60分)

授業で習得したアカデミックスキルズを他の授業等の学習に活用する。(60分)

必要とされる授業回では、レポートと発表を、教員の指導に従い十分な時間をかけて作成する。(120分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

定期試験は行ないません。よって再試験も実施しません。授業の第2回目から第13回目までは、授業の各回で用意された入門的なアカデミックスキルズを活用する際の発言や活動、宿題により、「読む、聞く、話す、書く」能力および積極性を総合的に評価します。一方、協調性を乱すような行為、遅刻や欠席、宿題の未提出や提出遅延は減点の対象とします。これらを平常点とします。

第14回目と第15回目の合同ゼミでは、チーム毎の発表と質疑応答を通じて提案内容（根拠の有無、実現性、効果、論理性）と表現の工夫、質疑応答内容、チームワーク（協調性）をチーム単位で評価します。

2回のミニレポートと学期末の最終レポートでは、内容の構成と論理性、レポート作成ルールの順守、形式的な体裁を評価します。剽窃などのルール違反は大幅な減点とします。

以上、平常点と合同ゼミ、レポートの評価の割合は、それぞれ6割、1割、3割とします。

◎－－－　テキスト　－－－◎

特に使用しません。授業中に、適宜、プリントなどを配布します。

◎－－－　参考書　－－－◎

・『福大生のための学習ナビ』（福岡大学　教育開発支援機構） http://www.idshe.fukuoka-u.ac.jp/navi/navi2.pdf
・『「言葉の力」育成の手引』（福岡大学　教育開発支援機構） http://www.idshe.fukuoka-u.ac.jp/kotochika-tebiki/kotochika-tebiki.pdf
・佐藤望編著『アカデミック・スキルズ』（慶應義塾大学出版会）
ISBN 978-4-7664-1960-3
その他、授業中に適宜紹介します。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

・このアカデミックスキルズゼミIは、講義形式の授業とは異なり、基本的には皆さん自身が自ら考え、調べ、発言し、ゼミの仲間と議論することを通じてアカデミックスキルズを身につけてゆくことになります。その意味で、授業には積極的な姿勢で臨み、安易に欠席や遅刻をしないようにしましょう。
・可能であれば、後期開講の「アカデミックスキルズゼミⅡ」もあわせて履修することを勧めます。より充実したアカデミックスキルズの習得が期待できます。

◎－－－　授業計画　－－－◎

〇第1回：合同ガイダンス（スタートアップ授業）
合同ゼミに向けた個別課題（1回目）が提示されます。
〇第2～5回、第6～9回、第10～13回：各教員による4回分の授業
「概要」欄に書いたように、2回目から13回目までは、受講生は4チームに分かれます。それぞれのチームは3名の教員から4回ずつ授業を受けることになります。担当教員3名の組合せはチームによって異なります。詳細はスタートアップ授業で説明します。なお、4名の教員の4回分の講義内容の概要は以下の通りです。

鶴田（情報科学）
読む：文章の構造を手掛かりに読もう
書く：批判を基に自分の意見を考えよう
話す：自分の意見を構造化して伝えよう
話す・聞く：学んだことをチームでまとめよう

佐藤（計算機工学）
読む：読んで理解する
聞く：聞いて理解する
話す：話して伝える
書く：書いて伝える

須長（科学哲学）
聞く：大学の「ルール」を知ろう
書く：大学と高校の授業の違いを考えよう
読む：より深く考えるための読み方を学ぼう
話す：意見交換の技術を知ろう

紺田（心理学）
読む：自己分析から自分を理解しよう
話す：自分の言葉で他者に伝えよう
聞く：他者の話を聞き視野を広げよう
書く：これからの目標をまとめよう

〇第14～15回：合同ゼミ
第14～15回では、各グループの学習成果の全体発表に向けた最終準備と、発表本番、そしてそれらを分析的に振り返るグループワークを実施します。

※すべての授業を鶴田・佐藤・須長・紺田が担当する

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/7lvqld938rtergbemusn3e6tmuwrhoal)

◎－－－　添付ファイル　－－－◎

2023年度ASゼミⅠ授業予定表
(2023年度ASゼミⅠの授業日程と担当教員.pdf)

アカデミックスキルズゼミⅠ（読む・書く・話す・聞くことのレッスン）

2023-S000009622-02

関口　浩喜、道山　治延、永田　潔文、高橋　伸弥

期別：前期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：演習　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：無し
授業時間割：前期：木・１時限　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

大学では、所属する学部学科によらず、体系化された学問知識だけではなく、「データの読みとり方」、「他人の意見の要点のとらえ方」、「論理的な思考法」、「質問の仕方」、「批判や反論の方法」、「他人に自分の意見を伝える方法」、「ノートのとり方」、「わかりやすい文章の書き方」といった多くの高度なアカデミックスキルズ（学問的技法）を習得する必要があります。この授業では、それらの基礎部分である「読む、聞く、話す、書く」能力をアカデミックスキルズの習得に必要不可欠なレベルにまで多角的に養います。そのために、授業は異なる学問分野を専門とする４名の教員が担当します。同時に大学で学問を修めるための学ぶ態度や規律性も身に付けます。

この授業は、講義形式とグループワークを組み合わせて行ないます。具体的には以下の通りです。まずスタートアップ授業の後に、受講生を４チームに分けます。それぞれのチームは3名の教員から3回ずつ授業を受けることになります（添付ファイル「アカデミックスキルズゼミⅠ・2023年度授業予定表」を参照してください）。そこでは、「授業計画」の欄の第3回目から第11回目までに記載している複数の入門的なアカデミックスキルズを活用する場面（グループワークを含む）を通じて「読む、聞く、話す、書く」能力を育成する授業を行ないます。その後、第12回目と第13回目の授業では、合同ゼミのための準備を行ないます。そして、第14回目と第15回目の合同ゼミでは、受講生全員が一つの教室に集まって、それまでに養った「読む、聞く、話す、書く」能力を実地に活用する課題に取り組み、それを発表します。また、学期中に提出するミニレポートを通じてレポート作成のルールと基本的な体裁を知り、適切な構成と論理性を踏まえた内容のレポートを作成する練習をした後、学期末には、合同ゼミの内容を踏まえて各自が最終レポートを提出します。

◎－－－　到達目標　－－－◎

大学での学習の基礎となる「読む・書く・話す・聞く」技能が身につく。(DP1-1)(技能)

新しい知識や情報を自ら調べ、検討する姿勢をもつ。(DP1-2)(態度・志向性)

文系・理系の諸学問の特性に対する基本的な理解が身につく。(DP2-1)(知識・理解)

異なる学部・学科のメンバーとのグループワークを通じて、自分の見方を広げる態度をもつ。(DP2-2)(態度・志向性)

相手の主張やテキストのポイントを摑むための基本的な知識が身につく。(DP3-1)(知識・理解)

異なる学部・学科のメンバーとの話し合いにおいて、自分の主張を明確に伝えるための基本的な諸技能が身につく。(DP4-1)(技能)

グループワークにおいて、自分の役割に責任をもち、グループに貢献する態度が身につく。(DP4-2)(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

理解することがむずかしかった点を整理し、次回の授業で質問できるよう準備する。(30分)

次回の授業までに調べてくるよう指示された項目に関して予習を行なう。(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

定期試験は行ないません。よって再試験も実施しません。授業の第3回目から第11回目までは、授業の各回で用意された入門的なアカデミックスキルズを活用する際の発言や活動、宿題により、「読む、聞く、話す、書く」能力および積極性を総合的に評価します。一方、協調性を乱すような行為、遅刻や欠席、課題の未提出や提出遅延は減点の対象とします。これらを平常点とします。

第14回目と第15回目の合同ゼミでは、チーム毎の発表と質疑応答を通じて提案内容（根拠の有無、実現性、効果、論理性）と表現の工夫、質疑応答内容、チームワーク（協調性）をチーム単位で評価します。

ミニレポートと学期末の最終レポートでは、内容の構成と論理性、レポート作成ルールの順守、形式的な体裁を評価します。剽窃などのルール違反は大幅な減点とします。

以上、平常点と合同ゼミ、レポートの評価の割合は、それぞれ6割、1割、3割とします。

◎－－－　テキスト　－－－◎

特に使用しません。授業中に、適宜、プリントなどを配布します。

◎－－－　参考書　－－－◎

福大生のための学習ナビ
アカデミック・スキルズ　ISBN 978-4-7664-1324-3
新版論理トレーニング　ISBN 978-4782802113
その他、授業中に適宜、紹介します。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

このアカデミックスキルズゼミIは講義形式の授業とは異なり、基本的には皆さん自身が自ら考え、調べ、発言し、ゼミの仲間と議論することを通じてアカデミックスキルズを身につけてゆくことになります。その意味で、授業には積極的な姿勢で臨み、安易に欠席や遅刻をしないようにしましょう。また、もし可能であれば、後期開講のアカデミックスキルズゼミⅡもあわせて履修することを勧めます。より充実したアカデミックスキルズの習得が期待できます。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1回　イントロダクション（スタートアップ授業）
2回　合同ガイダンス
3回～11回
「概要」欄に書いたように、3回目から11回目までの授業では、受講生は4つのチームに分かれます。それぞれのチームは４名の教員から3回ずつ授業を受けることになります。各チームの担当教員割および教室は第2回目の全体ガイダンスで通知します。授業の詳細は第2回目の合同ガイダンスで説明します。

なお、４名の教員の3回分の講義内容は以下の通りです。

関口（人文）、読む：文章のポイントをつかもう、話す：的確に質問しよう、話す：的確に批判しよう
永田（理）、聞く：ノートを取ろう、読む：文献を読もう、書く・話す：自分の意見を書いて発表しよう
道山（法）、聞く：ノートをとろう、読む：文献を読もう、話す：意見を交換しよう
髙橋(工)、聞く・読む：要点をメモしよう、書く・話す：内容や構成を考えよう

12回・13回　合同ゼミのための準備作業
14回・15回　合同ゼミ

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/jac1w3jbkdi7hdho3ty5f6et0g44o34b)

◎－－－　添付ファイル　－－－◎

アカデミックスキルズゼミⅠ・2023年度授業予定表
(アカデミックスキルズゼミⅠ・2023年度授業予定表.xlsx)

アカデミックスキルズゼミⅡ（思考と発想のレッスン）

2023-S000009623-01

永田　潔文、道山　治延、関口　浩喜、吉田　秀幸、髙橋　伸弥

期別：後期　　単位数：2　　開講年次：１　　授業の種類：対面授業科目　　授業形態：演習　　実務経験：無し　　科目水準：入門　　試験実施：無し
授業時間割：後期：木・１時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

この授業では、大学での学修に必要な基本的な「学問の技法（アカデミックスキルズ）」を多角的に学びます。特にアカデミックスキルズゼミⅡでは「思考と発想のレッスン」という事で、順序立てて考える習慣を身につける事や、新しいアイディアを得るための方法を学ぶ事に重点を置きます。また、この授業は異なる学問分野を専門とする5名の教員が担当しますので、色々な考え方や論理の展開の仕方を学ぶ事ができます。
この授業形態は、以下のようになっています。受講生は5チームに分けられます。それぞれのチームは３名の教員から３回ずつ授業を受けることになります（第３回目から第11回目）。そこでは、具体的なテーマや課題が提示され、その解決のための方法や手続きをゼミの参加者全員で考え議論しながら、多面的な考え方を自ら学び、それを今後の大学での学修に応用する力を身につけます。
第12回目と第13回目のゼミで、全てのチームはそれまでに学んだアカデミックスキルズを応用して、共通の１つの課題に取り組みます。第14回目と第15回目のゼミで、各チームはその結果を発表し、全員で討論します。
また学期中のミニレポートを通じてレポート作成のルールと基本的な体裁を知り、適切な構成と論理性を踏まえた内容のレポートを作成する練習をします。その後、学期末には、合同ゼミの内容を踏まえて各自が最終レポートを提出します。

◎－－－　到達目標　－－－◎

グループによる学習方法、即ち、人の話を聞く、自分の意見を相手にわかりやすく述べる、グループで決めた学習ルールを守る、議論に積極的に参加する、仲間と協調して1つの課題に取り組む、等の方法を身につける。(DP1-1)(技能)

順序だてて考える習慣を身につける。(DP1-2)(態度・志向性)

文系、理系の諸学問の特性に対する基本的理解を身につける。(DP2-1)(知識・理解)

他人の思考方法や発想方法を学ぶことで、多様なものの見方や分析の仕方、柔軟な発想力を習得する。(DP2-2)(技能)

グループワーク等で、自分の意見を責任を持って発言できる。(DP3-1)(態度・志向性)

グループワークで、課題に対して結論が出るまで粘り強く取り組むことができる。(DP3-2)(態度・志向性)

ミニレポートと最終レポートでは、レポート作成ルールを順守して形式的な体裁を整え、適切な構成と論理性を踏まえた内容のレポートを作成できる。(DP4-1)(知識・理解)

一人では解決できない複雑な問題に対して、グループを形成することで解決していこうとする態度を身につける。(DP4-2)(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

必ず復習をして、理解の難しかった点を自分なりに整理し、次回の授業で質問するようにしてください。(30分)

次回の授業までに調べてくるよう指示された項目については必ず予習をしたうえで、授業に臨んでください。また、レポートは、教員の指導に従い十分な時間をかけて作成してください。(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

定期試験は行いません。よって再試験も実施しません。第3回目から第13回目までの授業では、ゼミでの発言の内容（多様なものの見方や分析、柔軟な発想ができたかどうか）や積極性、協調して問題解決に取り組む姿勢を総合的に評価します。なお、欠席や遅刻などグループワークを行う際の協調性を乱すような行為や宿題の未提出、提出遅延は減点の対象とします。これらを平常点とします。
第14回目と第15回目の合同ゼミでは、チーム毎の発表と質疑応答を通じて提案内容と表現の工夫、質疑応答内容、チームワークをチーム単位で評価します。
ミニレポートと学期末の最終レポートでは、与えられた問題に対する多様なものの見方や、柔軟な発想に基づく解決策が正しい日本語で表現されているかについて評価します。留意点として、ネット上の文章や他の人の文献からの剽窃は大幅な減点になります。自分の考えを自分の言葉で表現することが大切です。
以上、平常点と合同ゼミ、レポートの評価の割合は、それぞれ6割、1割、3割とします。

◎－－－　テキスト　－－－◎

特に使用しません。授業中に、適宜、プリントなどを配布します。

◎－－－　参考書　－－－◎

『「言葉の力」育成の手引』（福岡大学　教育開発支援機構）
http://www.idshe.fukuoka-u.ac.jp/kotochika-tebiki/kotochika-tebiki.pdf
『福大生のための学習ナビ』（福岡大学　教育開発支援機構）グループ発表の準備の仕方
http://www.idshe.fukuoka-u.ac.jp/navi/dbook/

その他、授業中に適宜、紹介します。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

このアカデミックスキルズゼミⅡは講義形式の授業とは異なり、参加する皆さんが主役となって作りあげてゆく授業です。担当教員が講義する場面もありますが、基本的には皆さん自身が自ら考え、調べ、発言し、他の仲間と議論することを通じてアカデミックスキルズを身につけてゆくことになります。その意味で、授業には積極的な姿勢で臨み、安易に欠席や遅刻をしないようにしましょう。無断欠席をすると評価の6割を占める平常点の評価ができません。また欠席する場合には授業開始までにメール等で担当の教員に連絡して下さい（次回の授業に向けた課題がでている場合があります。授業後であってもかならず次回までに担当教員に連絡し、課題の有無を確認すること）。
なお、もし可能であれば、前期開講のアカデミックスキルズゼミIもあわせて履修することを勧めます。より充実したアカデミックスキルズの習得が期待できます。

◎－－－　授業計画　－－－◎

回授業内容
1イントロダクション：スタートアップ授業（動画配信）（担当者全員）
2合同ガイダンス、アイスブレーキング（担当者全員）
3～11「概要」欄に書いたように、3回目から11回目までは、受講生は5チームに分かれます。それぞれのチームは3名の教員から3回ずつ授業を受けることになります。担当教員3名の組み合わせはチームによって異なります。各チームの担当教員割を記載した「2023年度アカデミックスキルズゼミⅡ授業予定表」、ならびに「チーム分け表」を、第2回が始まるまでにFUポータルの授業紹介「添付ファイル」欄に添付しますので、参照してください。詳細は第2回の授業で説明します。なお、5名の教員は以下に記載する授業内容を3回の授業で実施します。
関口(人文学部)：①一錠しかない特効薬を誰に与えるべきか？：問題を正確につかみ、自分なりの回答を考える。②一錠しかない特効薬を誰に与えるべきか？：他人の回答を聞きながら、多面的に考える。③友人ができないという悩み：問題を正確につかみ、自分なりの回答を考える。
永田(理学部)：①グループ学習のルール、および、議論の発散と収束の手法を学ぶ。その後、グループで取り組む課題を探し、決める。②調査結果を発表し、課題解決に取り組む。KJ法を学ぶ。発表用パワーポイントを作成する。③課題解決に取り組んだ成果を発表する。
吉田(薬学部):①命を育む：頭を柔らかくして、柔軟な発想を試みる。②命を守る：グループで考え、物事を多面的に捉える。③命を考える：様々な意見を集約し、発表・討論する
道山(法学部)：①読む/調べる：「できちゃった結婚」って何？　②意見を交換しよう：「できちゃった結婚」の何が問題？　③まとめよう：グループで結論
髙橋(工学部):①解決したい問題を各グループで設定する。②問題の解決法を調査し、その結果を発表資料としてまとめる。③調査結果の発表、質疑応答を行う。
12,13共通課題グループワーク(担当者全員)
14,15合同ゼミ(担当者全員)

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/it12zoy828kas8vkyj8yozdw32se0jtu)

◎－－－　添付ファイル　－－－◎

2023年度アカデミックスキルズゼミⅡ授業予定表
(R5授業計画表.pdf)

アカデミックスキルズゼミⅡ（思考と発想のレッスン）

2023-S000009623-02

鈴木　学、鶴田直之，須長一幸，紺田広明，請園智玲

期別：後期　　単位数：2　　開講年次：１　　授業の種類：対面授業科目　　授業形態：演習　　実務経験：無し　　科目水準：入門　　試験実施：無し
授業時間割：後期：火・５時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

大学で学ぶことは，みなさんが所属する学部学科において体系化された学問知識だけではありません。「データの読みとり方」，「他人の意見の要点のとらえ方」，「論理的な思考法」，「質問の仕方」，「批判や反論の方法」，「他人に自分の意見を伝える方法」，「ノートのとり方」，「わかりやすい文章の書き方」といった全学部学科に共通する多くの高度なアカデミックスキルズ（学問的技法）を習得する必要があります。
この授業は，それらの基礎である「読む，聞く，話す，書く」能力を活かしながら，順序立てて考えたり，アイディアを得るための新しい方法に挑戦したりする「思考と発想のレッスン」です。大学で学ぶ上で，すでにみなさんが有している基礎的かつ必要不可欠な能力を，アカデミックスキルズのレベルにまで高められるよう，多角的にトレーニングしていくのがこの授業になります。そのために，授業は異なる学問分野を専門とする5名の教員が担当します。
この授業の進め方は少し特殊です。受講生は5チーム（5教室）に分けられ，各チームは教員3名から授業を受講することになります。各教員の授業は3回で完結するように構成されています（「授業計画」欄の第2回目～第4回目，第6回目～第8回目，第10回目～第12回目に該当）。みなさんはそこで，多様なアカデミックスキルズ活用場面を通じて「読む，聞く，話す，書く」能力を高めつつ，仲間と議論しながら思考・発想する方法を学んでいきます。
各教員による授業とあわせて，みなさんには全15回の授業を通じた共通の課題に取り組んでもらいます。これは受講生全員が集まって実施する合同ゼミを中心に進めていきます（「授業計画」欄の第5回目，第9回目，第13回目～第15回目に該当）。そこでは，あらかじめ個々人で取り組む個別課題（2回）を，各グループ内で検討・議論し，一つの成果にまとめあげ，最終的にはグループ毎に発表してもらいます。これらを受けて，学期末にはみなさん一人ひとりに最終レポートを執筆してもらいます。

◎－－－　到達目標　－－－◎

アカデミックスキルズ（「読む，聞く，話す，書く」能力）の意味・方法・重要性について理解することができる。(DP1-1)(知識・理解)

自他の学習の活性化に向けて思考し，発想し続けることができる。(DP1-2)(態度・志向性)

様々な学問分野の学習を経験し，自身の専門分野以外の立場にも理解を示すことができる。(DP2-1)(知識・理解)

グループワークにおいて他者の意見や考えを傾聴できる。(DP2-2)(技能)

自身の考えや意見を適切かつ論理的に他者に伝えることができる。(DP3-1)(知識・理解)

チームでの学習活動において自己・他者・全体の状況を多角的に分析し，課題解決に向けて貢献することができる。(DP3-2)(態度・志向性)

他者が納得する構成のレポートや発表資料を整えることができる。(DP4-1)(技能)

仲間と協働することの価値を自分なりに見いだした上で，その価値の実現に向けて活動しようとすることができる。(DP4-2)(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

＜復習＞
授業後，論点を整理し，特に難しかった点について次回質問する。(50分)

＜予習＞
指示された課題について，調べてまとめ上げる。(50分)

＜合同ゼミに関わる学習＞
授業時間とは別に個別課題への取組みや，グループでの検討作業を計画的に実施する。(80分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

定期試験は行いません。よって再試験も実施しません。
各教員による授業では，ゼミでの発言の内容（多様なものの見方や分析，柔軟な発想ができたかどうか）や積極性，協調して問題解決に取り組む姿勢を総合的に評価します。なお，協調性を乱すような行為，遅刻や欠席によって生じる不十分な学習活動，課題の未提出や提出遅延は減点対象です。これらを平常点とします。
第5・9・13・14・15回目の合同ゼミでは，グループ毎の検討作業，学習成果の発表とそれに対する質疑応答を通じて，提案内容と表現の工夫，質疑応答内容，グループワークについてグループ単位で評価します。
個別課題（2回）と学期末の最終レポートでは，与えられた課題に対して，多様なものの見方と柔軟な発想に基づく意見表明が，適切な内容と方法で表現されているかについて評価します。留意点として，ネット上の文章や他者の文献からの剽窃は厳禁です。ルールに則った引用を行い，自分の考えを自分の言葉で表現することを大切にしてください。
以上，平常点と合同ゼミ，レポートの評価の割合は，それぞれ4割，2割，4割とします。

◎－－－　テキスト　－－－◎

特に使用しません。

◎－－－　参考書　－－－◎

『福大生のための学習ナビ』（福岡大学　教育開発支援機構）
http://www.idshe.fukuoka-u.ac.jp/navi/navi2.pdf
「言葉の力」育成の手引』（福岡大学　教育開発支援機構）
http://www.idshe.fukuoka-u.ac.jp/kotochika-tebiki/kotochika-tebiki.pdf
その他，授業中に適宜紹介します。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

・本授業は講義形式の授業とは異なり，参加するみなさんが主体となって作りあげる授業です。担当教員が講義する場面もありますが，基本的にはみなさん自身が自ら考え，調べ，発言し，他の仲間と議論することを通じて自身のアカデミックスキルズを鍛えていくことになります。その意味で，授業には積極的な姿勢でのぞむことが求められます。
・無断欠席による学習活動の不履行は大幅な減点対象ですので，欠席する場合には授業開始までにメール等でその授業回を担当する教員に連絡してください（次回の授業に向けた課題がでている場合があります。授業後であっても次回までに担当教員に連絡し，課題の有無を確認しましょう）。
・撮影した授業の動画や写真，学習成果物（発表資料等）について，授業改善や研究等への活用で外部に公表する場合があります。その際，個人が特定されない形で使用します。
・授業（特に合同ゼミ）では，「Microsoft Teams」を活用するので，ノートパソコンやタブレットを持参してください。
・本授業には学生の学習支援者（Student Advisor: SA）が参画します。
・可能であれば，前期開講の「アカデミックスキルズゼミI」もあわせて履修することを勧めます。より充実したアカデミックスキルズの習得が期待できます。

◎－－－　授業計画　－－－◎

〇第1回：合同ガイダンス（スタートアップ授業）
・合同ゼミに向けた個別課題（1回目）が提示されます。

〇第2～4回，第6～8回，第10～12回：各教員による3回分の授業
・「概要」欄に書いた通り，この授業回は各チーム教員3名から3回ずつ授業を受けます。担当教員3名の組合せはチームによって異なります（担当教員割は第2回授業実施までに通知します）。
・教員5名の専門分野と3回分の講義内容は以下の通りです。
＜鈴木（学習科学）＞
①「資質・能力」概念を理解する
②ルーブリックで「資質・能力」を具現化する
③自身の成長目標をルーブリックで管理する
＜鶴田（情報科学，開発の思考と発想）＞
①何を作るか設計する
②作る工程を設計する
③開発をチームで管理する
＜須長（科学哲学）＞
①「問いを立てる」技術の重要性を理解する
②「問いを立てる」技術の基本を学ぶ
③「問いを立てる」技術を磨く
＜紺田（心理学）＞
①心理テストを体験する
②心理テストを作成する
③心理テストを分析する
＜請園（コンピュータ科学）＞
①情報の不思議を体験する
②情報の機能を理解し伝える
③コンピュータの役割・応用を議論する

〇第5回，第9回，第13～15回：合同ゼミ
・第5・9回では，あらかじめ個別課題に取り組んだ上で，それらの内容を各グループ内で議論し，集約するグループワークを実施します。
・第13～15回では，各グループの学習成果の全体発表に向けた最終準備と，発表本番，そしてそれらを分析的に振り返るグループワークを実施します。

※すべての授業を鈴木・鶴田・須長・紺田・請園が担当する

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/yty9zbohejeoqrg5pqvld0mb1fsewblc)

◎－－－　添付ファイル　－－－◎

授業予定表
(ASセミⅡ_授業予定表.pdf)

データサイエンス・AI入門（デジタル社会のリテラシーを身に付けよう！）

2023-S000009625-01

瀬川　波子、香野 淳、奥村 勝、中國 真教、藤村 丞

期別：集中前期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：遠隔授業科目　授業形態：講義及び演習　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：無し
授業時間割：集中前期　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

本科目は、Society 5.0 時代に求められるデータサイエンス・AIの基礎を身に付けるための入門科目であり、文部科学省のプログラム認定制度「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）」に適合する内容の科目です。　本科目では、データサイエンスやAIについて興味・関心を持ち、AI時代に身に付けておくべき素養（新たな読み書きそろばん）を習得するため、社会で活用されている事例を通して、データサイエンスやAIに関する基礎的な知識と技術を学びます。また、この入門科目での学習をきっかけとして、大学生のうちに数理・データサイエンス・AIに関する学びをさらに深め、将来は、日常や仕事の場においてデータサイエンスやAIを使いこなせるようになることを目指して、自ら学習に取り組んでいきます。
この科目では、自分にあったペースで学び、関心を高めていけるよう、いつでも、どこでも、何度でも学習できるLMS（学習管理システム）／eラーニング（e-Learning）教材を活用して授業を行います。具体的には、オンデマンド型講義のコンテンツを視聴しながら、授業メモを取り、分からない用語や手法等についてはインターネット等を活用して自ら調べて学んでいきます。学びを深めたい人のためにFU_boxを活用して参考となる教材を提供します。各自が都合の良い時間を活用し、それぞれのペースで受講していくことはこの科目の特徴の一つです。また、分からない箇所やExcelの使い方について質問を共有しながら学ぶことができるように、学期中に質問会や説明会を開催する予定です。自ら学ぶ姿勢をもつことが大切ですので、成績評価においては、知識・理解だけでなく、各回の授業の取り組みを重視します。

◎－－－　到達目標　－－－◎

① AI・データサイエンスの必要性を説明できる(DP1-1)(知識・理解)

② 社会で活用されているデータ・AI活用の事例を例示できる(DP1-1)(知識・理解)

③ どのような思考方法でデータを扱うか説明できる(DP1-1)(技能)

④ データを読み、説明することができる(DP1-1)(技能)

⑤ Excelなどの汎用ソフトウエアを用いて典型的なデータを扱うことができる(DP4-1)(技能)

⑥ データ・AIを扱う上での留意事項を説明できる(DP4-1)(知識・理解)

⑦ 数理・データサイエンス・AIについて自ら学び、活かす姿勢が身に付いている(DP1-2)(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

予習：次回の授業内容に関連する用語を事前に調べ、これまでに学んだ事項との結びつきや用語間の関連性について考える。(60分)

復習：授業内容をまとめた手書き授業メモ、資料を読み返し、授業内容の理解を深める。また、積極的に課題や演習に取り組む。(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

・このクラスは定期試験期間中には試験は実施しません。よって再試験も実施しません。
・本科目は単位認定科目である（合否のみを判定）。
・評価基準：到達目標に対する達成度を評価基準とする。
・評価方法：定期試験は行わず、学習に取り組む態度・姿勢（e-Learningにおける講義受講状況、小テストや自己評価などの取り組み）および小テストや演習課題の評点を約60%、質問会や説明会における質疑応答内容や態度・姿勢を約10%、手書き授業メモの提出とその内容評価を約30%として、総合的に評価する。

◎－－－　テキスト　－－－◎

特に定めない。参考となる図書を紹介する。

◎－－－　参考書　－－－◎

北川 源四郎，竹村彰通（編），「教養としてのデータサイエンス (データサイエンス入門シリーズ)」（講談社，2021）　ISBN 978-4065238097

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

(1) 授業時間割等の期別の欄には「集中前期」と表記されますが、集中講義期間に受講する科目ではなく、通常の前期開講の科目と同じ期間内に受講し、小テストや課題等の提出も前期授業期間内に行っていただく科目です。（正確な提出締切日などは別途通知されます。）
(2) 本科目は、オンライン上で自ら学んでいく科目であり、各自が都合の良い時間に受講することができるオンデマンド型授業です。前期授業の期間中、講義動画は何度でも視聴できるので、自分のペースで学び、小テストや課題に取り組んでください。ただし、期間内に課題等の提出まですべて終わるように、無理のない計画を立てて学んでいきましょう。
(3) 講義動画の視聴から、小テストや課題の取り組み、手書き授業メモの作成・提出等まで、全てを自らの力でできるようになることが求められます。そのため、視聴履歴、課題や手書き授業メモなどの提出・アップロードの日時や提出者、ファイルの作成者など、全てのデータは記録・保存され、確認されます。
(4) 質問およびその回答はFUポータルのBBS掲示板、FU_boxを使って共有できますので、理解を助けるために活用してください。
(5) オンラインまたは教室での対面（もしくはオンラインと対面のハイブリッド）で、質問を受けつけ、一緒に考える機会を設けます（質問会と称します）。他の受講生からの質問やそれに対する回答を直接聴くことができる場にもなりますので、積極的に参加してください。開催日時等の詳細は、FUポータルおよびメールを通じて連絡します。
【e-Learningの利用について】本科目の履修が確定した後、（大学のIDとは別に）この科目専用の LMS/e-Learningのアカウントが履修者に発行されます。専用LMS/e-Learningの授業コンテンツはアカウントを受け取ってから利用できるようになります。なお、第１回「スタートアップ授業」については、FUポータルから大学のIDで受講できます。

◎－－－　授業計画　－－－◎

第1回 スタートアップ授業
・授業のガイダンス
　（教員紹介、受講の仕方、注意事項など）
・イントロダクション
　（データサイエンスを学ぶ意義など）
第2回 社会で起きている変化
第3回 社会で活用されているデータ
第4回 データ・AIの活用領域
＊第4回までの締切日に注意.
第5回 データ・AI利活用のための技術
第6回 データ活用とは
第7回 データ・AI利活用の現場
第8回 データ・AI利活用の最新動向
＊第8回までの締切日に注意.
第9回 データを読む(1)
第10回 データを読む(2)
第11回 データを説明する
第12回 データを扱う
＊第12回までの締切日に注意.
第13回 データ・AIを扱う上での留意事項(1)
第14回 データ・AIを扱う上での留意事項(2)
第15回 データを守る上での留意事項とまとめ
　　今後に向けた学習について(研究の事例
　　を通して知るデータサイエンスの応用)
＊第15回までの最終締切日に注意.

【特記事項１】上記１５回分の授業とは別に、データサイエンスが重要視される背景やデジタル技術のキーワードに関する事項を学ぶ e-Learningコンテンツ「データサイエンスとは」を設けています。「データサイエンスとは」については、専用LMS/e-Learningのアカウントを受け取った後、できる限り早い時期に受講しておくこと（小テストなども含めて、第２回授業の前に受講することが望ましい）。

【特記事項２】＊印の通り、第4回、第8回、第12回、第15回までの講義視聴、確認テストや課題等は、それぞれの締切日までに終了しなくてはいけません。各締切日までのe-Learningの取り組み、締切日までに提出されたテストや課題等の結果のみが評価対象となります。各締切日はFUポータルあるいは大学メール等を通じて連絡されますので、それらの連絡・通知に注意しておいてください。

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/ljh9mxl9n49q1q8an0hs8ty4d1gho0z6)

データサイエンス・AI入門（デジタル社会のリテラシーを身に付けよう！）

2023-S000009625-02

瀬川　波子、香野 淳、奥村 勝、中國 真教、藤村 丞

期別：集中後期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：遠隔授業科目　授業形態：講義及び演習　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：無し
授業時間割：集中後期　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

本科目は、Society 5.0 時代に求められるデータサイエンス・AIの基礎を身に付けるための入門科目であり、文部科学省のプログラム認定制度「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）」に適合する内容の科目です。　本科目では、データサイエンスやAIについて興味・関心を持ち、AI時代に身に付けておくべき素養（新たな読み書きそろばん）を習得するため、社会で活用されている事例を通して、データサイエンスやAIに関する基礎的な知識と技術を学びます。また、この入門科目での学習をきっかけとして、大学生のうちに数理・データサイエンス・AIに関する学びをさらに深め、将来は、日常や仕事の場においてデータサイエンスやAIを使いこなせるようになることを目指して、自ら学習に取り組んでいきます。
この科目では、自分にあったペースで学び、関心を高めていけるよう、いつでも、どこでも、何度でも学習できるLMS（学習管理システム）／eラーニング（e-Learning）教材を活用して授業を行います。具体的には、オンデマンド型講義のコンテンツを視聴しながら、授業メモを取り、分からない用語や手法等についてはインターネット等を活用して自ら調べて学んでいきます。学びを深めたい人のためにFU_boxを活用して参考となる教材を提供します。各自が都合の良い時間を活用し、それぞれのペースで受講していくことはこの科目の特徴の一つです。また、分からない箇所やExcelの使い方について質問を共有しながら学ぶことができるように、学期中に質問会や説明会を開催する予定です。自ら学ぶ姿勢をもつことが大切ですので、成績評価においては、知識・理解だけでなく、各回の授業の取り組みを重視します。

◎－－－　到達目標　－－－◎

① AI・データサイエンスの必要性を説明できる(DP1-1)(知識・理解)

② 社会で活用されているデータ・AI活用の事例を例示できる(DP1-1)(知識・理解)

③ どのような思考方法でデータを扱うか説明できる(DP1-1)(技能)

④ データを読み、説明することができる(DP1-1)(技能)

⑤ Excelなどの汎用ソフトウエアを用いて典型的なデータを扱うことができる(DP4-1)(技能)

⑥ データ・AIを扱う上での留意事項を説明できる(DP4-1)(知識・理解)

⑦ 数理・データサイエンス・AIについて自ら学び、活かす姿勢が身に付いている(DP1-2)(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

予習：次回の授業内容に関連する用語を事前に調べ、これまでに学んだ事項との結びつきや用語間の関連性について考える。(60分)

復習：授業内容をまとめた手書き授業メモ、資料を読み返し、授業内容の理解を深める。また、積極的に課題や演習に取り組む。(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

・このクラスは定期試験期間中には試験は実施しません。よって再試験も実施しません。
・本科目は単位認定科目である（合否のみを判定）。
・評価基準：到達目標に対する達成度を評価基準とする。
・評価方法：定期試験は行わず、学習に取り組む態度・姿勢（e-Learningにおける講義受講状況、小テストや自己評価などの取り組み）および小テストや演習課題の評点を約60%、質問会や説明会における質疑応答内容や態度・姿勢を約10%、手書き授業メモの提出とその内容評価を約30%として、総合的に評価する。

◎－－－　テキスト　－－－◎

特に定めない。参考となる図書を紹介する。

◎－－－　参考書　－－－◎

北川 源四郎，竹村彰通（編），「教養としてのデータサイエンス (データサイエンス入門シリーズ)」（講談社，2021）　ISBN 978-4065238097

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

(1) 授業時間割等の期別の欄には「集中前期」と表記されますが、集中講義期間に受講する科目ではなく、通常の前期開講の科目と同じ期間内に受講し、小テストや課題等の提出も前期授業期間内に行っていただく科目です。（正確な提出締切日などは別途通知されます。）
(2) 本科目は、オンライン上で自ら学んでいく科目であり、各自が都合の良い時間に受講することができるオンデマンド型授業です。前期授業の期間中、講義動画は何度でも視聴できるので、自分のペースで学び、小テストや課題に取り組んでください。ただし、期間内に課題等の提出まですべて終わるように、無理のない計画を立てて学んでいきましょう。
(3) 講義動画の視聴から、小テストや課題の取り組み、手書き授業メモの作成・提出等まで、全てを自らの力でできるようになることが求められます。そのため、視聴履歴、課題や手書き授業メモなどの提出・アップロードの日時や提出者、ファイルの作成者など、全てのデータは記録・保存され、確認されます。
(4) 質問およびその回答はFUポータルのBBS掲示板、FU_boxを使って共有できますので、理解を助けるために活用してください。
(5) オンラインまたは教室での対面（もしくはオンラインと対面のハイブリッド）で、質問を受けつけ、一緒に考える機会を設けます（質問会と称します）。他の受講生からの質問やそれに対する回答を直接聴くことができる場にもなりますので、積極的に参加してください。開催日時等の詳細は、FUポータルおよびメールを通じて連絡します。
【e-Learningの利用について】本科目の履修が確定した後、（大学のIDとは別に）この科目専用の LMS/e-Learningのアカウントが履修者に発行されます。専用LMS/e-Learningの授業コンテンツはアカウントを受け取ってから利用できるようになります。なお、第１回「スタートアップ授業」については、FUポータルから大学のIDで受講できます。

◎－－－　授業計画　－－－◎

第1回 スタートアップ授業
・授業のガイダンス
　（教員紹介、受講の仕方、注意事項など）
・イントロダクション
　（データサイエンスを学ぶ意義など）
第2回 社会で起きている変化
第3回 社会で活用されているデータ
第4回 データ・AIの活用領域
＊第4回までの締切日に注意.
第5回 データ・AI利活用のための技術
第6回 データ活用とは
第7回 データ・AI利活用の現場
第8回 データ・AI利活用の最新動向
＊第8回までの締切日に注意.
第9回 データを読む(1)
第10回 データを読む(2)
第11回 データを説明する
第12回 データを扱う
＊第12回までの締切日に注意.
第13回 データ・AIを扱う上での留意事項(1)
第14回 データ・AIを扱う上での留意事項(2)
第15回 データを守る上での留意事項とまとめ
　　今後に向けた学習について(研究の事例
　　を通して知るデータサイエンスの応用)
＊第15回までの最終締切日に注意.

【特記事項１】上記１５回分の授業とは別に、データサイエンスが重要視される背景やデジタル技術のキーワードに関する事項を学ぶ e-Learningコンテンツ「データサイエンスとは」を設けています。「データサイエンスとは」については、専用LMS/e-Learningのアカウントを受け取った後、できる限り早い時期に受講しておくこと（小テストなども含めて、第２回授業の前に受講することが望ましい）。

【特記事項２】＊印の通り、第4回、第8回、第12回、第15回までの講義視聴、確認テストや課題等は、それぞれの締切日までに終了しなくてはいけません。各締切日までのe-Learningの取り組み、締切日までに提出されたテストや課題等の結果のみが評価対象となります。各締切日はFUポータルあるいは大学メール等を通じて連絡されますので、それらの連絡・通知に注意しておいてください。

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/ljh9mxl9n49q1q8an0hs8ty4d1gho0z6)

データサイエンス・AI入門「BB」（デジタル社会のリテラシーを身に付けよう！）

2023-S000009625-03

瀬川　波子、香野 淳、奥村 勝、中國 真教、藤村 丞

期別：集中前期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：遠隔授業科目　授業形態：講義及び演習　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：無し
授業時間割：集中前期二部１時限　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

本科目は、Society 5.0 時代に求められるデータサイエンス・AIの基礎を身に付けるための入門科目であり、文部科学省のプログラム認定制度「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）」に適合する内容の科目です。　本科目では、データサイエンスやAIについて興味・関心を持ち、AI時代に身に付けておくべき素養（新たな読み書きそろばん）を習得するため、社会で活用されている事例を通して、データサイエンスやAIに関する基礎的な知識と技術を学びます。また、この入門科目での学習をきっかけとして、大学生のうちに数理・データサイエンス・AIに関する学びをさらに深め、将来は、日常や仕事の場においてデータサイエンスやAIを使いこなせるようになることを目指して、自ら学習に取り組んでいきます。
この科目では、自分にあったペースで学び、関心を高めていけるよう、いつでも、どこでも、何度でも学習できるLMS（学習管理システム）／eラーニング（e-Learning）教材を活用して授業を行います。具体的には、オンデマンド型講義のコンテンツを視聴しながら、授業メモを取り、分からない用語や手法等についてはインターネット等を活用して自ら調べて学んでいきます。学びを深めたい人のためにFU_boxを活用して参考となる教材を提供します。各自が都合の良い時間を活用し、それぞれのペースで受講していくことはこの科目の特徴の一つです。また、分からない箇所やExcelの使い方について質問を共有しながら学ぶことができるように、学期中に質問会や説明会を開催する予定です。自ら学ぶ姿勢をもつことが大切ですので、成績評価においては、知識・理解だけでなく、各回の授業の取り組みを重視します。

◎－－－　到達目標　－－－◎

① AI・データサイエンスの必要性を説明できる(DP1-1)(知識・理解)

② 社会で活用されているデータ・AI活用の事例を例示できる(DP1-1)(知識・理解)

③ どのような思考方法でデータを扱うか説明できる(DP1-1)(技能)

④ データを読み、説明することができる(DP1-1)(技能)

⑤ Excelなどの汎用ソフトウエアを用いて典型的なデータを扱うことができる(DP4-1)(技能)

⑥ データ・AIを扱う上での留意事項を説明できる(DP4-1)(知識・理解)

⑦ 数理・データサイエンス・AIについて自ら学び、活かす姿勢が身に付いている(DP1-2)(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

予習：次回の授業内容に関連する用語を事前に調べ、これまでに学んだ事項との結びつきや用語間の関連性について考える。(60分)

復習：授業内容をまとめた手書き授業メモ、資料を読み返し、授業内容の理解を深める。また、積極的に課題や演習に取り組む。(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

・このクラスは定期試験期間中には試験は実施しません。よって再試験も実施しません。
・本科目は単位認定科目である（合否のみを判定）。
・評価基準：到達目標に対する達成度を評価基準とする。
・評価方法：定期試験は行わず、学習に取り組む態度・姿勢（e-Learningにおける講義受講状況、小テストや自己評価などの取り組み）および小テストや演習課題の評点を約60%、質問会や説明会における質疑応答内容や態度・姿勢を約10%、手書き授業メモの提出とその内容評価を約30%として、総合的に評価する。

◎－－－　テキスト　－－－◎

特に定めない。参考となる図書を紹介する。

◎－－－　参考書　－－－◎

北川 源四郎，竹村彰通（編），「教養としてのデータサイエンス (データサイエンス入門シリーズ)」（講談社，2021）　ISBN 978-4065238097

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

(1) 授業時間割等の期別の欄には「集中前期」と表記されますが、集中講義期間に受講する科目ではなく、通常の前期開講の科目と同じ期間内に受講し、小テストや課題等の提出も前期授業期間内に行っていただく科目です。（正確な提出締切日などは別途通知されます。）
(2) 本科目は、オンライン上で自ら学んでいく科目であり、各自が都合の良い時間に受講することができるオンデマンド型授業です。前期授業の期間中、講義動画は何度でも視聴できるので、自分のペースで学び、小テストや課題に取り組んでください。ただし、期間内に課題等の提出まですべて終わるように、無理のない計画を立てて学んでいきましょう。
(3) 講義動画の視聴から、小テストや課題の取り組み、手書き授業メモの作成・提出等まで、全てを自らの力でできるようになることが求められます。そのため、視聴履歴、課題や手書き授業メモなどの提出・アップロードの日時や提出者、ファイルの作成者など、全てのデータは記録・保存され、確認されます。
(4) 質問およびその回答はFUポータルのBBS掲示板、FU_boxを使って共有できますので、理解を助けるために活用してください。
(5) オンラインまたは教室での対面（もしくはオンラインと対面のハイブリッド）で、質問を受けつけ、一緒に考える機会を設けます（質問会と称します）。他の受講生からの質問やそれに対する回答を直接聴くことができる場にもなりますので、積極的に参加してください。開催日時等の詳細は、FUポータルおよびメールを通じて連絡します。
【e-Learningの利用について】本科目の履修が確定した後、（大学のIDとは別に）この科目専用の LMS/e-Learningのアカウントが履修者に発行されます。専用LMS/e-Learningの授業コンテンツはアカウントを受け取ってから利用できるようになります。なお、第１回「スタートアップ授業」については、FUポータルから大学のIDで受講できます。

◎－－－　授業計画　－－－◎

第1回 スタートアップ授業
・授業のガイダンス
　（教員紹介、受講の仕方、注意事項など）
・イントロダクション
　（データサイエンスを学ぶ意義など）
第2回 社会で起きている変化
第3回 社会で活用されているデータ
第4回 データ・AIの活用領域
＊第4回までの締切日に注意.
第5回 データ・AI利活用のための技術
第6回 データ活用とは
第7回 データ・AI利活用の現場
第8回 データ・AI利活用の最新動向
＊第8回までの締切日に注意.
第9回 データを読む(1)
第10回 データを読む(2)
第11回 データを説明する
第12回 データを扱う
＊第12回までの締切日に注意.
第13回 データ・AIを扱う上での留意事項(1)
第14回 データ・AIを扱う上での留意事項(2)
第15回 データを守る上での留意事項とまとめ
　　今後に向けた学習について(研究の事例
　　を通して知るデータサイエンスの応用)
＊第15回までの最終締切日に注意.

【特記事項１】上記１５回分の授業とは別に、データサイエンスが重要視される背景やデジタル技術のキーワードに関する事項を学ぶ e-Learningコンテンツ「データサイエンスとは」を設けています。「データサイエンスとは」については、専用LMS/e-Learningのアカウントを受け取った後、できる限り早い時期に受講しておくこと（小テストなども含めて、第２回授業の前に受講することが望ましい）。

【特記事項２】＊印の通り、第4回、第8回、第12回、第15回までの講義視聴、確認テストや課題等は、それぞれの締切日までに終了しなくてはいけません。各締切日までのe-Learningの取り組み、締切日までに提出されたテストや課題等の結果のみが評価対象となります。各締切日はFUポータルあるいは大学メール等を通じて連絡されますので、それらの連絡・通知に注意しておいてください。

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/5x38x8h1z41zh2h0dc5ywkiifvizxm5w)

データサイエンス・AI入門「BB」（デジタル社会のリテラシーを身に付けよう！）

2023-S000009625-04

瀬川　波子、香野 淳、奥村 勝、中國 真教、藤村 丞

期別：集中後期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：遠隔授業科目　授業形態：講義及び演習　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：無し
授業時間割：集中後期二部１時限　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

本科目は、Society 5.0 時代に求められるデータサイエンス・AIの基礎を身に付けるための入門科目であり、文部科学省のプログラム認定制度「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）」に適合する内容の科目です。　本科目では、データサイエンスやAIについて興味・関心を持ち、AI時代に身に付けておくべき素養（新たな読み書きそろばん）を習得するため、社会で活用されている事例を通して、データサイエンスやAIに関する基礎的な知識と技術を学びます。また、この入門科目での学習をきっかけとして、大学生のうちに数理・データサイエンス・AIに関する学びをさらに深め、将来は、日常や仕事の場においてデータサイエンスやAIを使いこなせるようになることを目指して、自ら学習に取り組んでいきます。
この科目では、自分にあったペースで学び、関心を高めていけるよう、いつでも、どこでも、何度でも学習できるLMS（学習管理システム）／eラーニング（e-Learning）教材を活用して授業を行います。具体的には、オンデマンド型講義のコンテンツを視聴しながら、授業メモを取り、分からない用語や手法等についてはインターネット等を活用して自ら調べて学んでいきます。学びを深めたい人のためにFU_boxを活用して参考となる教材を提供します。各自が都合の良い時間を活用し、それぞれのペースで受講していくことはこの科目の特徴の一つです。また、分からない箇所やExcelの使い方について質問を共有しながら学ぶことができるように、学期中に質問会や説明会を開催する予定です。自ら学ぶ姿勢をもつことが大切ですので、成績評価においては、知識・理解だけでなく、各回の授業の取り組みを重視します。

◎－－－　到達目標　－－－◎

① AI・データサイエンスの必要性を説明できる(DP1-1)(知識・理解)

② 社会で活用されているデータ・AI活用の事例を例示できる(DP1-1)(知識・理解)

③ どのような思考方法でデータを扱うか説明できる(DP1-1)(技能)

④ データを読み、説明することができる(DP1-1)(技能)

⑤ Excelなどの汎用ソフトウエアを用いて典型的なデータを扱うことができる(DP4-1)(技能)

⑥ データ・AIを扱う上での留意事項を説明できる(DP4-1)(知識・理解)

⑦ 数理・データサイエンス・AIについて自ら学び、活かす姿勢が身に付いている(DP1-2)(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

・予習：次回の授業内容に関連する用語を事前に調べ、これまでに学んだ事項との結びつきや用語間の関連性について考える。(60分)

・復習：授業内容をまとめた手書き授業メモ、資料を読み返し、授業内容の理解を深める。また、積極的に課題や演習に取り組む。(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

・このクラスは定期試験期間中には試験は実施しません。よって再試験も実施しません。
・本科目は単位認定科目である（合否のみを判定）。
・評価基準：到達目標に対する達成度を評価基準とする。
・評価方法：定期試験は行わず、学習に取り組む態度・姿勢（e-Learningにおける講義受講状況、小テストや自己評価などの取り組み）および小テストや演習課題の評点を約60%、質問会や説明会における質疑応答内容や態度・姿勢を約10%、手書き授業メモの提出とその内容評価を約30%として、総合的に評価する。

◎－－－　テキスト　－－－◎

特に定めない。参考となる図書を紹介する。

◎－－－　参考書　－－－◎

北川 源四郎，竹村彰通（編），「教養としてのデータサイエンス (データサイエンス入門シリーズ)」（講談社，2021）　ISBN 978-4065238097

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

(1) 授業時間割等の期別の欄には「集中前期」と表記されますが、集中講義期間に受講する科目ではなく、通常の前期開講の科目と同じ期間内に受講し、小テストや課題等の提出も前期授業期間内に行っていただく科目です。（正確な提出締切日などは別途通知されます。）
(2) 本科目は、オンライン上で自ら学んでいく科目であり、各自が都合の良い時間に受講することができるオンデマンド型授業です。前期授業の期間中、講義動画は何度でも視聴できるので、自分のペースで学び、小テストや課題に取り組んでください。ただし、期間内に課題等の提出まですべて終わるように、無理のない計画を立てて学んでいきましょう。
(3) 講義動画の視聴から、小テストや課題の取り組み、手書き授業メモの作成・提出等まで、全てを自らの力でできるようになることが求められます。そのため、視聴履歴、課題や手書き授業メモなどの提出・アップロードの日時や提出者、ファイルの作成者など、全てのデータは記録・保存され、確認されます。
(4) 質問およびその回答はFUポータルのBBS掲示板、FU_boxを使って共有できますので、理解を助けるために活用してください。
(5) オンラインまたは教室での対面（もしくはオンラインと対面のハイブリッド）で、質問を受けつけ、一緒に考える機会を設けます（質問会と称します）。他の受講生からの質問やそれに対する回答を直接聴くことができる場にもなりますので、積極的に参加してください。開催日時等の詳細は、FUポータルおよびメールを通じて連絡します。
【e-Learningの利用について】本科目の履修が確定した後、（大学のIDとは別に）この科目専用の LMS/e-Learningのアカウントが履修者に発行されます。専用LMS/e-Learningの授業コンテンツはアカウントを受け取ってから利用できるようになります。なお、第１回「スタートアップ授業」については、FUポータルから大学のIDで受講できます。

◎－－－　授業計画　－－－◎

第1回 スタートアップ授業
・授業のガイダンス
　（教員紹介、受講の仕方、注意事項など）
・イントロダクション
　（データサイエンスを学ぶ意義など）
第2回 社会で起きている変化
第3回 社会で活用されているデータ
第4回 データ・AIの活用領域
＊第4回までの締切日に注意.
第5回 データ・AI利活用のための技術
第6回 データ活用とは
第7回 データ・AI利活用の現場
第8回 データ・AI利活用の最新動向
＊第8回までの締切日に注意.
第9回 データを読む(1)
第10回 データを読む(2)
第11回 データを説明する
第12回 データを扱う
＊第12回までの締切日に注意.
第13回 データ・AIを扱う上での留意事項(1)
第14回 データ・AIを扱う上での留意事項(2)
第15回 データを守る上での留意事項とまとめ
　　今後に向けた学習について(研究の事例
　　を通して知るデータサイエンスの応用)
＊第15回までの最終締切日に注意.

【特記事項】上記１５回分の授業とは別に、データサイエンスが重要視される背景やデジタル技術のキーワードに関する事項を学ぶ e-Learningコンテンツ「データサイエンスとは」を設けています。「データサイエンスとは」については、専用LMS/e-Learningのアカウントを受け取った後、できる限り早い時期に受講しておくこと（小テストなども含めて、第２回授業の前に受講することが望ましい）。

【特記事項２】＊印の通り、第4回、第8回、第12回、第15回までの講義視聴、確認テストや課題等は、それぞれの締切日までに終了しなくてはいけません。各締切日までのe-Learningの取り組み、締切日までに提出されたテストや課題等の結果のみが評価対象となります。各締切日はFUポータルあるいは大学メール等を通じて連絡されますので、それらの連絡・通知に注意しておいてください。

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/ted50bvhaazmezcvp7wp7g9tt8tgm75q)

福大生のためのキャリアデザイン（大学生活を設計する）

2023-S000009621-01

植上　一希、藤野　真、鈴木　学

期別：前期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：無し
授業時間割：前期：火・１時限　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

◎授業の目的・内容
　本講義は１年生を対象に行う。
　中心となる問いは、「大学生になる」とはどういうことか、である。1年生は大学生としてのライセンスを得た状態にいるが、そのライセンスを中身あるものにしていくことが、「大学生になる」ということに他ならない。この「大学生になる」ために必要な考え方や取り組み方について、本講義では、具体的な実践もとりいれながら習得していく。
　その際、この福岡大学において受講者が「福大生になる」という具体的な観点をとくに重視し、福大生の置かれている社会的位置やかけられている期待、福岡大学において活用できる諸資源とそれを用いての成長可能性などを学んでいく。
　それをもとに、キャリアをデザインするとはどういうことか、キャリアをデザインするために大学でどのようなことを学び、身につけておかなければならないのかなど、自分自身のキャリアを考えるために必要な基本的な知識や考え方を理解することを目的とする。

◎授業の形式・進め方
　本授業は講義形式で実施する。授業の前半に前回のFormsの課題のフィードバック（20分程度）を行ったのちに新しい学習の講義（70分程度）を行う。授業では適宜授業内で匿名の意見の表明や挙手による発言・質問なども行っていく。

　授業では自分の考えを表明することも重視するとともに、フィードバックにおける同じ授業を受講している学生の意見・コメントやその解説からの学びも重視している。反芻的な学習を進めてほしい。

◎－－－　到達目標　－－－◎

大学における学習・生活を有意義に送るための基礎的な知識・方法を理解し、それを自身の経験や関心と関連させて説明することができる。(DP1-1)(知識・理解)

大学生としての学びの成果を「適切に表現する」ための基礎的な知識を理解し、Formsやレポート等において活用できる。(DP3-1)(知識・理解)

様々な意見や考え方があることを踏まえて、自身の意見や質問をFormsやレポート等で表現することができる。(DP2-2)(技能)

福大生として得ることができる知識・スキルの契機と種類を理解し、それらを自己のキャリアデザインと結びつけて説明することができる。(DP4-1)(技能)

大学卒業後のキャリア形成と大学生活を関連させて把握する観点を有し、自らのキャリア形成を主体的に考えることができる。(DP1-2)(態度・志向性)

福大生としてのキャリアデザインの多様性を理解し、そのなかで自らのキャリアを積極的にデザインしようとする志向性を有する。(DP4-2)(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

授業に関する参考文献等の予習や復習を適宜指示するので、必ずそれを行うこと。(30分)

毎回、授業に対する意見・質問をFormsで提出する課題を課すので、それにも対応すること。(30分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

　「レポート課題」2回（6割）、「Forms」（4割）で評価する。
　到達目標として設定されている、「知識・理解」、「技能」、「態度・志向性」の6要素を基準として、評価を行う。
　また、授業では小グループによる議論や、全体討論などを実施し、その積極的な参加状況も評価に加えることがある（加点）。
　この科目は定期試験を実施しない。よって再試験も実施しない。

◎－－－　テキスト　－－－◎

鈴木学・植上一希・藤野真『大学生になるってどういうこと？［第２版］――学習・生活・アイデンティティ』大月書店、2022年。

◎－－－　参考書　－－－◎

講義の中で随時紹介する。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

　資料はFUBOXにアップする。それらを自身でダウンロードや印刷などをして、授業に臨むこと。私語や遅刻など他者の学習権を侵害するような行為を禁止する。なお、サークル活動等による欠席はとくに配慮しない。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１．イントロダクション（スタートアップ授業）
２．大学生ルーキーとしての現在を見つめるということ
３．これまでの自分を「振り返る」ということ
４．これからの未来に思いを巡らすということ
５．大学生になるということ①―大学生の学びを理解し実行していく
６．不特定多数の他者に「伝える」ということ
７．学びの成果を「適切に表現する」ということ
８．大学生になるということ②―なりたい自分になる
９．大学生として様々な社会と向き合うということ
１０．学生生活を支援するHDセンター
１１．「私の履歴書」作り方
１２．キャリア形成を支援するキャリアセンター
１３．大学生になるということ③
１４．授業の総括と振り返り
１５．授業での学びを共有しよう

＜すべての授業を植上・藤野・鈴木が担当する＞

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/k2amk4gh3gsmmd82hxqa4dji2p61elf0)

福大生のためのキャリアデザイン（大学生活を設計する）

2023-S000009621-02

植上　一希、藤野　真、鈴木　学

期別：前期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：無し
授業時間割：前期：火・２時限　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

◎授業の目的・内容
　本講義は１年生を対象に行う。
　中心となる問いは、「大学生になる」とはどういうことか、である。1年生は大学生としてのライセンスを得た状態にいるが、そのライセンスを中身あるものにしていくことが、「大学生になる」ということに他ならない。この「大学生になる」ために必要な考え方や取り組み方について、本講義では、具体的な実践もとりいれながら習得していく。
　その際、この福岡大学において受講者が「福大生になる」という具体的な観点をとくに重視し、福大生の置かれている社会的位置やかけられている期待、福岡大学において活用できる諸資源とそれを用いての成長可能性などを学んでいく。
　それをもとに、キャリアをデザインするとはどういうことか、キャリアをデザインするために大学でどのようなことを学び、身につけておかなければならないのかなど、自分自身のキャリアを考えるために必要な基本的な知識や考え方を理解することを目的とする。

◎授業の形式・進め方
　本授業は講義形式で実施する。授業の前半に前回のFormsの課題のフィードバック（20分程度）を行ったのちに新しい学習の講義（70分程度）を行う。授業では適宜授業内で匿名の意見の表明や挙手による発言・質問なども行っていく。

　授業では自分の考えを表明することも重視するとともに、フィードバックにおける同じ授業を受講している学生の意見・コメントやその解説からの学びも重視している。反芻的な学習を進めてほしい。

◎－－－　到達目標　－－－◎

大学における学習・生活を有意義に送るための基礎的な知識・方法を理解し、それを自身の経験や関心と関連させて説明することができる。(DP1-1)(知識・理解)

大学生としての学びの成果を「適切に表現する」ための基礎的な知識を理解し、Formsやレポート等において活用できる。(DP3-1)(知識・理解)

様々な意見や考え方があることを踏まえて、自身の意見や質問をFormsやレポート等で表現することができる。(DP2-2)(技能)

福大生として得ることができる知識・スキルの契機と種類を理解し、それらを自己のキャリアデザインと結びつけて説明することができる。(DP4-1)(技能)

大学卒業後のキャリア形成と大学生活を関連させて把握する観点を有し、自らのキャリア形成を主体的に考えることができる。(DP1-2)(態度・志向性)

福大生としてのキャリアデザインの多様性を理解し、そのなかで自らのキャリアを積極的にデザインしようとする志向性を有する。(DP4-2)(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

授業に関する参考文献等の予習や復習を適宜指示するので、必ずそれを行うこと。(30分)

毎回、授業に対する意見・質問をFormsで提出する課題を課すので、それにも対応すること。(30分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

　「レポート課題」2回（6割）、「Forms」（4割）で評価する。
　到達目標として設定されている、「知識・理解」、「技能」、「態度・志向性」の6要素を基準として、評価を行う。
　また、授業では小グループによる議論や、全体討論などを実施し、その積極的な参加状況も評価に加えることがある（加点）。
　この科目は定期試験を実施しない。よって再試験も実施しない。

◎－－－　テキスト　－－－◎

鈴木学・植上一希・藤野真『大学生になるってどういうこと？［第２版］――学習・生活・アイデンティティ』大月書店、2022年。

◎－－－　参考書　－－－◎

講義の中で随時紹介する。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

　資料はFUBOXにアップする。それらを自身でダウンロードや印刷などをして、授業に臨むこと。私語や遅刻など他者の学習権を侵害するような行為を禁止する。なお、サークル活動等による欠席はとくに配慮しない。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１．イントロダクション（スタートアップ授業）
２．大学生ルーキーとしての現在を見つめるということ
３．これまでの自分を「振り返る」ということ
４．これからの未来に思いを巡らすということ
５．大学生になるということ①―大学生の学びを理解し実行していく
６．不特定多数の他者に「伝える」ということ
７．学びの成果を「適切に表現する」ということ
８．大学生になるということ②―なりたい自分になる
９．大学生として様々な社会と向き合うということ
１０．学生生活を支援するHDセンター
１１．「私の履歴書」作り方
１２．キャリア形成を支援するキャリアセンター
１３．大学生になるということ③
１４．授業の総括と振り返り
１５．授業での学びを共有しよう

＜すべての授業を植上・藤野・鈴木が担当する＞

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/fk0hvalspaxmzssae12u53y0klnrnre3)

福岡大学を学ぶ・福岡大学でいかに学ぶか

2023-S000009624-01

香野　淳、檜垣　靖樹、須長　一幸、鈴木　学

期別：前期　　単位数：2　　開講年次：１　　授業の種類：対面授業科目　　授業形態：講義　　実務経験：無し　　科目水準：入門　　試験実施：無し
授業時間割：前期：火・３時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

皆さんがこれから４年間（６年間）を過ごす「大学」とは、一体どんな場所なのでしょうか。また、福岡大学はどんな大学なのでしょうか。この授業は、新入生の皆さんを対象に「大学」という魅力ある世界へいざなう、「大学入門」の科目です。

授業の第1回目はスタートアップ授業として、この科目で学ぶ内容の概略を説明するとともに、朔学長の講義をじかに聴く機会を設けています。福岡大学の歴史と理想とする教育や研究について、学長が自らの熱い想いを語ります。

第2回～第11回では、学内組織の長を務める先生方（ゲストスピーカー）による講義を聴講した後、各回のテーマ・課題についてグループワークを行います。講義内容は、大きく「福岡大学でいかに学ぶか」と「福岡大学を学ぶ」の２つに分けられます。

「福岡大学でいかに学ぶか」をテーマにした授業では、大学での学習の姿勢と方法とについて学びます。大学の第一の使命である教育について、「共育」の字を充て、学生、教職員、卒業生そして地域全体が一体となって共に成長・発展することを目指します。「Rise with Us」。この言葉に、その思いを込め、次代を担い社会を支える有為な人材になるように、まず、大学生としての学習の基本を身につけてください。

もう一つの「福岡大学を学ぶ」をテーマにした授業では、福岡大学の建学の精神や教育研究の理念をはじめ、福岡大学の組織、地域社会における役割、日本・世界への貢献などを学びます。この後半の授業を受けることを通じて、福岡大学に関する知識を身につけ、福大生であることの意味について考えてください。また、少人数に分かれておこなう各回のグループワークでは、講義内容について他者の考えや意見を聴き、議論を通して自分自身の理解を深めていきます。

第12回～第15回では、それまでの講義で学んだ内容や取り組んだ課題を基に、グループごとに最終課題に関する調査、討論を行い、福岡大学で学ぶ意味や福岡大学で学び方について皆さんが主体となって考え、深く掘り下げていきます。そして、最後はグループワークの成果をグループごとに発表します。

グループワークでは、他の受講生と協調・協働する能力、自らの意見を練り上げ、その意見を明確な言葉で表現する能力、他者に分かり易く伝えようとする姿勢を身につけることができます。グループワークには積極的に参加する意識と姿勢が求められます。

◎－－－　到達目標　－－－◎

大学で学ぶ意義、学び方などについて講義内容をもとに自ら考えを深め、自分の言葉で説明できる．(DP1-1)(知識・理解)

大学で授業を受けるために必要な事柄（ノートのとり方、授業における積極的な姿勢等）を身につけている．(DP1-1)(技能)

さまざまな考え方があることを踏まえ、自分と専門の異なる他者と協調、協働して学ぶことができる．(DP2-2)(態度・志向性)

授業の内容を要約し、自分の考えや意見を他者に明確に伝えることができる．(DP3-1)(知識・理解)

福岡大学の歴史、組織や役割、地域や社会に対する貢献など福岡大学について学んだこと、また自分の今後の学びについて説明することができる．(DP4-1)(知識・理解)

他者と協調、協働してグループで一つの課題に取り組み、自分の果たすべき役割を考え、課題の解決に貢献できる．(DP4-2)(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

授業内容に関連する事項を講義の前にあらかじめ調べること．(60分)

講義内容の要約、授業での気付き等をまとめる（期日までに提出）．調査課題等がある場合は次回に提出、グループでの共有、あるいは発表できるように取り組むこと．(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

定期試験のない科目です。よって再試験も実施しません。

毎回の授業後にミニッツペーパーを提出してもらいます。ミニッツペーパーでは、各授業の内容の要約やグループ課題について他者に分かるように書かれているかどうかを主として評価します。また2回のレポートでは、授業内容やグループワークを基に、課題について自分の考えをきちんまとめ、他者に分かるように記述しているかどうかを評価基準とします。グループ発表では討論によって考えを深め、まとめ上げて、他者に分かり易く伝えることができているかどうかを評価します。

ミニッツペーパーとレポートの記述内容を総合的に評価し、この授業の成績とします。評価の割合は、ミニッツペーパーを60%、レポートを20%、グループワークに係わる取り組み（発表を含む）を20%とします。

ミニッツペーパーやレポートなどは必ず期限までに提出しなくてはなりません。また、出席してグループ学習に取り組むことが必須です。欠席回数が多くなると自分自身の取り組みが不十分になるだけでなく、グループメンバーの取り組みにも影響を及ぼすことになりますので、欠席をしないようにしてください。

◎－－－　テキスト　－－－◎

・講義で配付する資料
配付資料がある場合はFUポータルにも掲載しますので、万一欠席した場合には、かならずMoodleから配付資料を入手してください。資料がないと課題や次回の授業の準備ができなくなることがあります。

◎－－－　参考書　－－－◎

・『福大生のための学習ナビ 2023』．新入生には入学前に郵送、あるいは入学時に配付されます。
・その他、各回の講義に関連する書籍等があります。必要に応じて、それぞれの担当者が講義の中で紹介します。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

・可能な限り、授業にはネットワークに接続できる情報機器（ノートパソコン、タブレットなど）を持参してください。
・講義内容を記録・整理するためにノート或いは情報機器を準備してください。
・この授業は「大学」を学ぶ科目です。大学で学ぶ基本ルール（遅刻をしない、私語をしない、途中退室をしない、など）を守って受講しましょう。
・この授業の前半はテーマごとの「オムニバス形式」講義とグループワークで構成されます。オムニバス形式とは、複数の先生方の講義によって構成され進行する授業の形式を意味します。各講義を担当する先生はそれぞれ異なる内容の講義を行いますので、１回でも欠席すれば、その内容の講義を全て聞き逃してしまうことになります。欠席しないようにしてください。なお、各回の講義の担当（ゲストスピーカー）は変更になる可能性があります。
・本授業には、学生の学習支援者（Student Advisor: SA）が参画します。
・授業風景を撮影し、報告や広報等に活用することがあります。
・授業実施に係るデータ、学習成果等を教育改善・研究に活用することがあります（発表・公表の際には個人が特定されないようにします）。

◎－－－　授業計画　－－－◎

第1回（スタートアップ授業）
①「福岡大学の歴史とこれからの展望を語る」
朔 啓二郎 福岡大学長
②授業のガイダンス
香野 共通教育センター長

第2回（4/11）：
(1)「『福まな』の学び方」
須長 教育開発支援機構教員
(2)「グループワークの取り組み方」
鈴木 教育開発支援機構教員
(3)「大学での学問ー学習ナビを活用しようー」
有岡 教育開発支援機構副機構長
第3回（4/18）：
(1)「共通教育を学ぶ意味」
香野 共通教育センター長
(2)グループワークに慣れる①
第4回（4/25）：
(1)「大学での学問と図書館」
永星 図書館長
(2)「デジタル化とメディアリテラシー」
情報基盤センター
(3)グループワークに慣れる②
第5回（5/2）：
(1)「母語以外の言語を学ぶ意味」
松﨑 共通教育センター長補佐
(2)「グローバル化とグローバル人材育成」
三島 国際センター長
(3)グループワークに慣れる③
第6回（5/9）：
(1)「大学での課外活動の意義」
椿井 学生部長
(2)グループワーク：中間レポートについて考える
第7回（5/16）：
(1)「福岡大学の教育と役割」
加留部 副学長
(2)グループ課題に取り組む①
最8回（5/23）：
(1)「大学における研究」
野田 研究推進部長
(2)グループ課題に取り組む②
第9回（5/30）：
(1)「スポーツと健康と地域社会」
田中 副学長
(2)グループ課題に取り組む③
第10回（6/6）：
(1)「大学とキャリア形成－就職・進路を考える－」
蓑輪 就職・進路支援センター長
(2)中間発表会
第11回（6/13）：
(1)講義内容のまとめ－大学生としての自分を確認しよう－
檜垣 教務部長
(2)グループ課題に取り組む④

第12回（6/20）：グループの課題に取り組む⑤〔発表スライドの検討〕
第13回（6/27）：グループの課題に取り組む⑥〔スライド作成、レジュメの作成〕
第14回（7/4）：最終発表会
第15回（7/11）：授業総括、FURIKAについて、最終レポートに関する質疑応答など

※檜垣教授、香野教授、須長准教授、鈴木准教授の４名は、それぞれの講義に加え、グループワークのコーディネーター役等として全15回の授業を担当します。

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/ibdo6bdrh3mlhu6g7ika27v58hieavyy)

福岡大学を学ぶ・福岡大学でいかに学ぶか

2023-S000009624-02

香野　淳、檜垣　靖樹、須長　一幸、鈴木　学

期別：後期　　単位数：2　　開講年次：１　　授業の種類：対面授業科目　　授業形態：講義　　実務経験：無し　　科目水準：入門　　試験実施：無し
授業時間割：後期：木・２時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

皆さんがこれから４年間（６年間）を過ごす「大学」とは、一体どんな場所なのでしょうか。また、福岡大学はどんな大学なのでしょうか。この授業は、新入生の皆さんを対象に「大学」という魅力ある世界へいざなう、「大学入門」の科目です。

授業の第1回目はスタートアップ授業として、この科目で学ぶ内容の概略を説明するとともに、朔学長の講義をじかに聴く機会を設けています。福岡大学の歴史と理想とする教育や研究について、学長が自らの熱い想いを語ります。

第2回～第11回では、学内組織の長を務める先生方（ゲストスピーカー）による講義を聴講した後、各回のテーマ・課題についてグループワークを行います。講義内容は、大きく「福岡大学でいかに学ぶか」と「福岡大学を学ぶ」の２つに分けられます。

「福岡大学でいかに学ぶか」をテーマにした授業では、大学での学習の姿勢と方法とについて学びます。大学の第一の使命である教育について、「共育」の字を充て、学生、教職員、卒業生そして地域全体が一体となって共に成長・発展することを目指します。「Rise with Us」。この言葉に、その思いを込め、次代を担い社会を支える有為な人材になるように、まず、大学生としての学習の基本を身につけてください。

もう一つの「福岡大学を学ぶ」をテーマにした授業では、福岡大学の建学の精神や教育研究の理念をはじめ、福岡大学の組織、地域社会における役割、日本・世界への貢献などを学びます。この後半の授業を受けることを通じて、福岡大学に関する知識を身につけ、福大生であることの意味について考えてください。また、少人数に分かれておこなう各回のグループワークでは、講義内容について他者の考えや意見を聴き、議論を通して自分自身の理解を深めていきます。

第12回～第15回では、それまでの講義で学んだ内容や取り組んだ課題を基に、グループごとに最終課題に関する調査、討論を行い、福岡大学で学ぶ意味や福岡大学で学び方について皆さんが主体となって考え、深く掘り下げていきます。そして、最後はグループワークの成果をグループごとに発表します。

グループワークでは、他の受講生と協調・協働する能力、自らの意見を練り上げ、その意見を明確な言葉で表現する能力、他者に分かり易く伝えようとする姿勢を身につけることができます。グループワークには積極的に参加する意識と姿勢が求められます。

◎－－－　到達目標　－－－◎

大学で学ぶ意義、学び方などについて講義内容をもとに自ら考えを深め、自分の言葉で説明できる．(DP1-1)(知識・理解)

大学で授業を受けるために必要な事柄（ノートのとり方、授業における積極的な姿勢等）を身につけている．(DP1-1)(技能)

さまざまな考え方があることを踏まえ、自分と専門の異なる他者と協調、協働して学ぶことができる．(DP2-2)(態度・志向性)

授業の内容を要約し、自分の考えや意見を他者に明確に伝えることができる．(DP3-1)(知識・理解)

福岡大学の歴史、組織や役割、地域や社会に対する貢献など福岡大学について学んだこと、また自分の今後の学びについて説明することができる．(DP4-1)(知識・理解)

他者と協調、協働してグループで一つの課題に取り組み、自分の果たすべき役割を考え、課題の解決に貢献できる．(DP4-2)(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

・授業内容に関連する事項を講義の前にあらかじめ調べること．(60分)

・講義内容の要約、授業での気付き等をまとめる（期日までに提出）．　調査課題等がある場合は次回に提出、グループでの共有、あるいは発表できるように取り組むこと．(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

定期試験のない科目です。よって再試験も実施しません。

毎回の授業後にミニッツペーパーを提出してもらいます。ミニッツペーパーでは、各授業の内容の要約やグループ課題について他者に分かるように書かれているかどうかを主として評価します。また2回のレポートでは、授業内容やグループワークを基に、課題について自分の考えをきちんまとめ、他者に分かるように記述しているかどうかを評価基準とします。グループ発表では討論によって考えを深め、まとめ上げて、他者に分かり易く伝えることができているかどうかを評価します。

ミニッツペーパーとレポートの記述内容を総合的に評価し、この授業の成績とします。評価の割合は、ミニッツペーパーを60%、レポートを20%、グループワークに係わる取り組み（発表を含む）を20%とします。

ミニッツペーパーやレポートなどは必ず期限までに提出しなくてはなりません。また、出席してグループ学習に取り組むことが必須です。欠席回数が多くなると自分自身の取り組みが不十分になるだけでなく、グループメンバーの取り組みにも影響を及ぼすことになりますので、欠席をしないようにしてください。

◎－－－　テキスト　－－－◎

・講義で配付する資料
配付資料がある場合はFUポータルにも掲載しますので、万一欠席した場合には、かならずMoodleから配付資料を入手してください。資料がないと課題や次回の授業の準備ができなくなることがあります。

◎－－－　参考書　－－－◎

・『福大生のための学習ナビ 2023』．新入生には入学前に郵送、あるいは入学時に配付されます。
・その他、各回の講義に関連する書籍等があります。必要に応じて、それぞれの担当者が講義の中で紹介します。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

・可能な限り、授業にはネットワークに接続できる情報機器（ノートパソコン、タブレットなど）を持参してください。
・講義内容を記録・整理するためにノート或いは情報機器を準備してください。
・この授業は「大学」を学ぶ科目です。大学で学ぶ基本ルール（遅刻をしない、私語をしない、途中退室をしない、など）を守って受講しましょう。
・この授業の前半はテーマごとの「オムニバス形式」講義とグループワークで構成されます。オムニバス形式とは、複数の先生方の講義によって構成され進行する授業の形式を意味します。各講義を担当する先生はそれぞれ異なる内容の講義を行いますので、１回でも欠席すれば、その内容の講義を全て聞き逃してしまうことになります。欠席しないようにしてください。なお、各回の講義の担当（ゲストスピーカー）は変更になる可能性があります。
・本授業には、学生の学習支援者（Student Advisor: SA）が参画します。
・授業風景を撮影し、報告や広報等に活用することがあります。
・授業実施に係るデータ、学習成果等を教育改善・研究に活用することがあります（発表・公表の際には個人が特定されないようにします）。

◎－－－　授業計画　－－－◎

第1回（スタートアップ授業）
①「福岡大学の歴史とこれからの展望を語る」
朔 啓二郎 福岡大学長
②授業のガイダンス
香野 共通教育センター長

第2回（9/14）：
(1)「『福まな』の学び方」
須長 教育開発支援機構教員
(2)「グループワークの取り組み方」
鈴木 教育開発支援機構教員
(3)「大学での学問ー学習ナビを活用しようー」
有岡 教育開発支援機構副機構長
第3回（9/21）：
(1)「共通教育を学ぶ意味」
香野 共通教育センター長
(2)グループワークに慣れる①
第4回（9/28）：
(1)「大学での学問と図書館」
永星 図書館長
(2)「デジタル化とメディアリテラシー」
情報基盤センター
(3)グループワークに慣れる②
第5回（10/5）：
(1)「母語以外の言語を学ぶ意味」
松﨑 共通教育センター長補佐
(2)「グローバル化とグローバル人材育成」
三島 国際センター長
(3)グループワークに慣れる③
第6回（10/12）：
(1)「大学での課外活動の意義」
椿井 学生部長
(2)グループワーク：中間レポートについて考える
第7回（10/19）：
(1)「福岡大学の教育と役割」
加留部 副学長
(2)グループ課題に取り組む①
最8回（10/26）：
(1)「大学における研究」
野田 研究推進部長
(2)グループ課題に取り組む②
第9回（11/2）：
(1)「スポーツと健康と地域社会」
田中 副学長
(2)グループ課題に取り組む③
第10回（11/9）：
(1)「大学とキャリア形成ー就職・進路を考えるー」
蓑輪 就職・進路支援センター長
(2)中間発表会
第11回（11/16）：
(1)講義内容のまとめー大学生としての自分を確認しようー
檜垣 教務部長
(2)グループ課題に取り組む④

第12回（11/30）：グループの課題に取り組む⑤〔発表スライドの検討〕
第13回（12/7）：グループの課題に取り組む⑥〔スライド作成、レジュメの作成〕
第14回（12/14）：最終発表会
第15回（12/21）：授業総括、FURIKAについて、最終レポートに関する質疑応答など

※檜垣教授、香野教授、須長准教授、鈴木准教授の４名は、それぞれの講義に加え、グループワークのコーディネーター役等として全15回の授業を担当します。

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/y0nizeqn37c83h6c6l3cyuuuuszl3vj4)